

徳島県立博物館

「ザ・モンスター～海と陸のへんてこ生物たち～」

開催期間：平成29年7月22日（土）～平成29年9月10日（日）



【企画展の内容・目的】

- 生物の姿形、暮らしには、生きるための大事な意味があることを学ぶ機会とした。深海生物や海の寄生生物といった奇抜な造形が目立つ生物に焦点をあてて生物の形の面白さに興味を喚起するとともに、それらを育んだ海の魅力や面白さについて共感する機会とした。人間と海の関わりについても考えるきっかけとした。
- 磯や河口の生き物を観察するイベント、プランクトンを観察するイベント、展示資料をスケッチするイベントを実施し、身近な自然環境の一つである海への興味関心を高める機会とした。
- 陸の生物と比較して展示することで、それぞれに暮らす生物の多様性を際立たせるとともに、海と陸は互いにつながりがあることを学ぶきっかけとした。
- 生きている海の生物を展示し、標本では伝わりにくいリアリティ溢れる姿を感じてもらうことで、海の生物とそれらを育む海への関心をより深めた。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成29年7月22日（土）～平成29年9月10日（日）
- 開催場所：徳島県立博物館 企画展示室
- 入場者数：25,986人



徳島県立博物館 外観



企画展会場 入口



企画展会場入口の無料ゾーンにモンスターの顔ハメパネルを設置し、誰でも自由に体験、撮影できるようにした。同時に企画展への興味関心を引きつけ、会場へ誘導するきっかけとした。入口正面には、会場の外からでもわかるような巨大タイトルパネルを設置し、その周囲に展示資料の白バック写真や生態写真を多数貼り付け、来場者を迎えるようにした。いずれも写真撮影コーナーとして自由に楽しめる場とした。

導入として、生物の進化の道筋を系統樹で表現し、生命のはじまりは海であることを印象づけた。各分類群の写真を附して多様な生物が生まれたことを紹介し、企画展のキーワードのひとつである「進化」についてもイラストを用いてわかりやすく解説した。

次いで、「古代のモンスター」のコーナーでは、アンモナイトや三葉虫などの化石資料と、太古の海のイメージ図を併せて紹介し、当時の海の様子について理解を深められるようにした。



「海のモンスター」のコーナーでは、海域ごとに棲んでいる生物が違うことを明確にするため、深海、外洋、浅海、磯、干潟と海の環境を4つに分け、海の生き物の形態や生態が環境と強く結びつきがあることを紹介した。

冒頭には、海とはどのような環境かをイラストを用いて簡潔に解説した。次いで、「深海」コーナーでは、導入として巨大な深海生物として知られるタカアシガニの剥製と、人気の高いオオグソクムシ属にスポットを当てたケースを設置した。グソクムシ類を間近で観察できるように、標本をできる限りガラス面に近づけ、大きさと形について実感できるように配慮した。深海魚など液浸標本で展示する資料については、標本・生態写真もあわせて展示することで実際の形や色などを比較して学べるよう意図した。「浅海」コーナーでは、とくに貝類、甲殻類、魚類の中からそれぞれ興味深い（来館者へ紹介したい）生物を取り上げて展示した。

それぞれの種について、形の面白さやくらしの不思議さなど、展示する生物の“どこがへんてこなのか”という注目すべきポイントを簡潔に紹介するパネルを作成し、海の生き物の多様性とその生態について楽しく学べるようにした。



リュウグウノツカイやサケガシラ、ラブカなど大型の深海魚は一般に興味関心が高く、今では誰もがよく知る生物となっているため、それらの剥製を露出展示し、実際にその大きさを体感できるように、またいろいろな角度から観察できるように展示した。いずれの大型剥製も徳島県では初めて展示するものばかりで、来館者の注目度がたいへん高く、写真撮影のスポットとしても人気があった。

「生きたモンスター」のコーナーでは、アメリカカブトガニなど海の生物も飼育展示し、来館者の興味関心をさらに高めた。多くの来館者にとって、カブトガニを生きた状態で間近で見る機会はありませんでした。企画展全体でもとくに人気のあるコーナーとなった。海と海洋生物への知的好奇心を喚起することができたと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「あなたの知らない寄生生物」として、寄生生物にスポットを当てたコーナーを設けた。ここでは、ウオノエなど一般に馴染みのない海の寄生生物を取り上げ、見た目のインパクトだけでなく、海の世界連鎖について理解を深める効果をもたせた。スーパーで購入した魚のエラに付着している標本も展示し、実は意外と身近に見られる海の生物であることも紹介した。また、ケモノに寄生するマダニ、昆虫に寄生するハリガネムシなどもあわせて展示し、奇妙な形とくらし、人との関わりについて紹介した。

「陸のモンスター」のコーナーでは、陸域ごとにさまざまな珍奇昆虫を展示し、海に棲む生物の多様性と比較しながら学ぶことができるように工夫した。

最後に「人もモンスター」というコーナーを設けた。人間活動によって姿を消したモンスターをパネルやはく製などで展示した。また、海洋汚染や森林破壊など、人間が直面している環境問題、海や陸から受けている恩恵を紹介し、海を守るためにはどうすればいいかを学ぶことを期待した。

【来館者の声】

- いろいろな生きものが海にすんでいたからびっくりした。(男性 7 歳)
- ほかにもモンスターを見つけたくなった。(男性 10 歳)
- 海は生き物たちが住む大切なところなので、自然やかんきょうを大切にしていきたいと思いました。(女性 11 歳)
- 海は不思議だなと感じた。まだ知らない生物を見つけられる可能性が感じられた。(女性 19 歳)
- カブトガニを生で見れてびっくりした。イカを食べている様子が見られてよかったです(女性 35 歳)
- 温暖化がすすみ、海の世界も変化しつつあるので生態系を守るためにも、自分自身、もう少し海に関心を持ちたいです。(女性 43 歳)
- 「生き物を知ることはとても面白いこと」というメッセージが良かった。もっと生き物を知るべき、知ったら面白いのだと分かった(女性 23 歳)

2. 関連事業の内容

■磯の生きものかんさつ（イベント）

【開催日時】平成29年5月27日（土）12:00～14:00

【開催場所】徳島県鳴門市（竜宮の磯）

【参加者数】84人

【実施内容・目的】

- 磯には多様な生物が生息しているため、海の生物を知るためのよい学びの場となる。実際に海の生物を探したり、触れたり、観察したりすることで、発見の喜びや驚きを感じることができる。また、地元の海に対する興味関心を持つきっかけになる。
- 企画展のイベントとして位置づけ、採集された生物を標本として展示する。これにより参加者の好奇心も高まり、付帯事業終了後も継続して博物館活動へ参加することが期待できる。



開催場所（鳴門市・竜宮の磯）



事前説明の様子



事前に配布した資料に基づいて、磯とはどのような場所なのか、どんな生き物が生息しているのかなどを小学生でもわかるような平易な表現を用いて解説した。生き物の探し方について説明した後、磯には危険な生物がいること、怪我に注意することなども周知した。その後、三々五々に分かれて、自由に採集・観察を行った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



各自が採集しているところに3人の行事担当者がそれぞれ適当にちらばり、声をかけながら探し方のコツや採集された磯の生物についてそれぞれ適宜解説を行った。アメフラシの背面を触って貝殻の名残を確かめてみたり、マダコの吸盤に触れてみたり、参加者があまり体験できないようなことを紹介しつつ観察を進めた。

魚類は担当者の一人が投網で採集し、水槽に入れて観察を行った。また、参加者が採ったカニやヤドカリ、エビなどの甲殻類も水槽で観察した。実際の水中の動きを直接観察できる場とし、参加者は楽しみながら学ぶことができた。



最後に、参加者によって採集された生き物の解説を行った。生物を手にとって解説するスタイルだが、参加人数が大変多く、小さな生き物だと後方までよく見えないことがあるため、専用の小型アクリル容器を使ったり、各種写真が掲載されている配付資料を併用したりしながら解説を行った。参加者は海の生物に対する知識をそれぞれ深めることができた。身近な海でたくさんの生物とふれあうことにより、地元の海に対する親しみをもっただけのようなのである。また、参加者によって採集された標本の一部（ヒザラガイ類、フジツボ類）を企画展にて展示した。

【来館者の声】

- 生き物がたくさんすんで、きれいな海を守りたい。また参加したい。(女性 10歳)
- こんなに近くに磯をみることができ、生物がとれ、勉強になった。(女性 42歳)
- 様々な生きものと触れ合うことができ、海に対して親しみが持てたり、大切にしたい気持ちが芽生えました。とても良かったです。(女性 40歳)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■ミクロのモンスターを観察しよう！

【開催日時】平成29年8月6日（日）13:30～15:30

【開催場所】徳島県立博物館 実習室

【参加者数】23人 ※抽選による（申込み38名）

【実施内容・目的】

- 一般に目にする機会のない海のプランクトンを顕微鏡を使って観察・スケッチをし、プランクトンの存在に興味関心を喚起するとともに、生き物を観察する眼を養う機会となる。
- 川や田んぼの微生物、森の落ち葉の下の小さな生物なども併せて観察することで、海のプランクトンの多様性をより深く認識できるとともに、それぞれの生物が異なった生態系で重要な役割を担っていることを知る機会とする。



開催場所の様子



事前説明の様子



ふだんは目にする事のない海のプランクトンを観察し、プランクトンの形態の美しさや不思議さに触れることで、海がさまざまな生物をはぐくむ場所であることを知るのが主な目的であった。主に海のプランクトンを対象としたが、併せて田んぼの中の微生物、落ち葉の中に棲む生き物も取り上げ、すむ場所によって種類や形などが違うことを比較しながら観察することとした。パワーポイントを使って、プランクトンに関する基本的な知識を解説することで、プランクトンが海の生態系の大切な役割を担っていることを学んだ。



小学生低学年から中学年の子もたちが多かったため、まずは顕微鏡の使い方とプレパラートの作り方をわかりやすく説明した。小学生にとっては少々難しいテクニックのように思われたが、写真のように大変熱心に耳を傾けていた。参加者にとっては、そもそもどのようなプランクトンが観察できるかわからないため、予め準備しておいた画像をスクリーンで映し出してデジタル図鑑として活用した。参加者全員が多数のプランクトンを発見することができ、親子で楽しく学ぶことができたように感じた。



近所の田んぼから採取した微生物と、博物館の裏からサンプリングした落ち葉の下の小さな生き物を比較観察した。海のプランクトンとは全く違う種類の生物が観察されたことで、多様な生き物への興味関心を喚起することができた。

顕微鏡という多少ともテクニックが必要なツールを用いたことにより、結果的に親子で楽しく学べた場であったように感じた。また、プランクトンといった海の知られざる生物への学びの意欲を高めることができたように思う。なかには自由研究として活用している小学生も見受けられた。

【来館者の声】

- いろいろな生きものがいることがわかった。(男性 9 歳)
- 水の中に小さい生きものがいっぱいいることがわかった。(女性 8 歳)
- 目には見えないけど海にはたくさんのプランクトンがいることを学んだ。(女性 9 歳)

■モンスターの絵を描こう！

【開催日時】平成29年8月19日（土）10:00～16:00

【開催場所】徳島県立博物館 企画展示室

【参加者数】130人

【実施内容・目的】

- 展示されているモンスターたちの中からお気に入りの生物を選び、スケッチするイベント。
- 生物学的な視点から生き物の絵の描くコツを伝えながら実施した。とくに未就学児に対しては、ただ好きなように描いてもらい、年齢問わず生き物を観察して絵を描く楽しさと観察することの面白さを実感することを目的とした。



開催場所の様子



参加者の受付



本付帯事業は企画展示室内で実施した。事前申込み不要、参加自由型のイベントで、企画展への来場者に対して行った。企画展示室入口にパネルを設置し、来場者へ開催を周知した。

基本的に自由参加型であるため、参加者用の受付にて画用紙とクリップボード（画板）を渡し、机の上に置いてある色えんぴつや鉛筆を使って会場内で絵を描いていただいた。事前の説明は端的に行い、誰もが気軽に参加できるようにした。これにより、とくに未就学児の参加が可能となり、年齢問わず誰もが楽しめることができた。



受付を済ませた参加者には、展示資料のうちお気に入りのモンスターを選び、絵を描いていただいた。楽しんで生き物を観察し絵を描くことが第一目的であるため、担当者が生物学的な視点から絵を描くことの意義とそのコツを説明してまわった。未就学児や小学生低学年に対しては、生き物の解説を織り交ぜた。また、描いた絵には種名（和名）や特徴など、展示ラベルの情報も一緒に書くよう説明した。娯楽要素に加え、専門的な情報を入れることで、生き物そのものへの関心を喚起した。



制限時間を設けていないため、参加者によっては1～2時間も絵を描き続けていた。なかには何度もチャレンジしてたくさんの生き物のスケッチをする参加者もいた。誰でも簡単にできることにより、イベント終了後も自宅や野外などでチャレンジできることも期待できた。

なお、本イベントは自由参加型であったことから、予想をはるかに越える参加者数となった。会場があまりに混雑して来場者アンケートを取るものが困難であったため、参加者へ直接感想を伺うことでアンケートの代わりとするとともに、展示会場内の来場者アンケートも参考とした。

【来館者の声】

- 時間はかかったけどリュウグウノツカイを描くことができた。（男性 9 歳）
- キアンコウの顔が面白かった。海にはらしぎな生き物がいることがわかった（女性 8 歳）
- 絵を描いたことで詳しく観察することができた。意外と難しかった。（女性 12 歳）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■河口の生きものかんさつ（ポストイベント）

【開催日時】平成29年10月7日（土）11:00～13:00

【開催場所】勝浦川河口（徳島市）

【参加者数】27人

【実施内容・目的】

- 海水と淡水が混じり合う河口は、栄養が豊富で様々な生き物がすんでいる。海と川の接点である河口にしかない生き物の採集・観察を通して、独特な環境に棲む生き物に対する理解を深めるとともに、河口干潟の希少性について考える機会とする。
- 企画展終了後に開催したため、企画展で展示していた生き物が実際にどのような環境でどのように暮らしているかを理解するポストイベントとしての位置づけとする。



開催場所（徳島市・勝浦川河口）



事前説明の様子



事前に配布した資料に基づいて、河口とはどのような環境なのか、どんな生き物が暮らしているのかなどを誰もがわかるような平易な表現を用いて解説した。とくに河口で見られる干潟という環境がいかに貴重な存在か、その貴重な環境が身近な場所で見られることの特殊性についても説明した。生き物の探し方について説明した後、注意事項を伝え、各自自由に採集・観察を行った。



各自が採集しているところに3人の行事担当者がそれぞれ適当にちらばり、声をかけながら探し方のコツや採集された生き物について適宜解説を行った。行事終了後も引き続き足を運んで観察してもらえよう、採集の仕方や観察の仕方、種の見分け方など、わかりやすく説明した。



最後に、各自が採集した生き物を持ち寄ってもらい、担当者が解説を行った。主に甲殻類、貝類、魚類といった担当者が解説可能な分類群に絞って説明した。観察しやすいよう、アクリル水槽などを用いてじっくりと見ていただいた。

今回のイベントを実施した場所は徳島市内であり、参加者にとっては身近な場所のひとつである。地元の自然環境にシオマネキやハクセンシオマネキといった全国的に希少な野生生物が豊富に見られることの素晴らしさを実感でき、地元の海と川に対して誇りをもっていただけなのではないかと思われる。

【来館者の声】

- カニがたくさんいて驚いた。海は楽しいし守っていきたい。(女性9歳)
- シオマネキを探すのが楽しかった。海を汚してはいけないと思った。(女性8歳)
- 大きなハマグリがいたので驚いた。たくさんの生き物がいた。(男性11歳)
- 環境を守って生き物のすみやすい状態を保っていきたいと思った。(男性40歳)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

【事業全体のまとめ】

本助成により財政的な援助を頂いたおかげで、さまざまな局面において大きな効果が得られた。一番は展示資料の充実である。当館に所蔵していない深海生物の剥製や海の大型魚類の剥製を遠方の他館から借用できたことが何よりも大きく、展示資料を充実させることができた。企画展の目玉になっただけでなく、海の学びを深める上で効果靚面であった。いずれも徳島ならびに四国では初めて展示するものばかりで、結果的に多数の来館者を誘引し広く普及することができた。印刷物の制作の点では、来館者に無料配布するリーフレット（見どころマップ）を作成し、企画展への導きに加えて、楽しく見学するためのツールとして活用できた。イラストレーターの協力をいただき、海の学びを高めるためのイラストを展示することができた。広報の展開においても大いに活用させていただいた。とくにJR 駅構内におけるポスター掲出により、県内外へ広く周知することが可能となった。

以上のように幅広くサポートをいただいたおかげで、地球上の生き物の奥深さ、海と陸のつながり、海からの恵み等々、海を軸とした事業展開ができ、広く一般に普及することができた。また、特殊事業であった昨年の企画展を除けば、過去最高の入館者数を記録することができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 徳島県教育委員会	学校教育と連携した企画展開連事業の展開（各種印刷物の配布、イベントの周知等）
2. 神奈川県立生命の星・地球博物館	協力（リュウグウノツカイや深海ザメ等の剥製・画像の借用）
3. ミュージアムパーク茨城県自然博物館	協力（大型魚類剥製の借用）
4. 高知大学理工学部海洋生物学研究室	協力（深海魚標本・画像の借用）
5. 海洋研究開発機構	協力（標本・画像の借用）
6. 千葉県立中央博物館	協力（画像の借用）
7. 兵庫県立人と自然の博物館	協力（寄生生物標本の借用）
8. 伊丹市昆虫館	協力（昆虫類の画像借用）
9. 横須賀市自然・人文博物館	協力（昆虫類の標本・画像借用）

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ワイヤーママ徳島版 7月号	イベント紹介 6月14日
2. タウン情報誌「Geen」7月号	イベント紹介 6月25日
3. 徳島新聞（朝刊）	奇妙な生き物集合 7月21日
4. NHK 徳島	ニュース 7月22日（12:00～、20:45～）
5. 徳島新聞（夕刊）	へんてこ生物一堂に 7月22日
6. 四国放送「フォーカス徳島」	7月27日
7. 徳島新聞（朝刊）	開催中のイベント 7月31日
8. テレビトクシマ「朝ごはん食べた？」	夏のおすすめイベント 8月1日
9. 徳島新聞（朝刊）阿波っこタイムズ	奇々怪々が一堂に 8月6日
10. 朝日新聞	へんてこ生物大集合 8月10日

11. 読売新聞	へんてこ生物いっぱい! 8月21日
12. エーアイテレビ「AIタウン情報」	イベント紹介 8月26日、31日
13. 産経新聞	徳島でへんてこ生物展 8月28日
14. 日経サイエンス9月号	INFORMATION「企画展・特別展」 9月1日

以上